

【Pay Forward基金】

Pay Forward 基金は、学びへの意欲と能力があり経済支援を必要とする学生を支える各種給付奨学金に活用するための基金です。大学が保有する基金(約580億円)(2023年1月末時点)のうち約80億円を、2024年度からPay Forward基金とし、奨学金専用のファンドとします。Pay Forward基金には寄付金も受入れ、2033年度には100億円を目指し、更なる奨学金充実の原資とします。基金創設により、奨学金受給率を学生全体の25%に引き上げることを目標にしています。

「Pay Forward」には「恩送り」の意味があり、大学時代に自分が受けた恩恵を未来の学生に対し送ってほしいという、卒業生に対する大学の想いが込められています。

【その他の支援等】

大学では、Pay Forward 基金以外にも学生支援や、大学の教育・研究活動発展のため、様々な使途で「寄付を募っています。例えば、「ICU Peace Bell 奨学金」は、主に同窓生の募金によって支えられている法人独自の奨学金です。大学の模範となる学生を入学前に募集し、4年間にわたって支援します。「Peace Bell」とは、

大学創立のため尽力した当時の日本銀行総裁・一万田尚登氏を記念し、創立50周年にICUチャペルに寄贈された平和の鐘の名称です。

その他にも、被災学生支援募金(ウクライナ学生支援含む)、経済的困窮学生向けこみ生活費支援募金、教育施設の整備(全体、本館)、キャンパスの自然環境保全募金なども行っています。

【募金キャンペーン】

創立記念日というタイミングで献学時の支援者の願いや思いをさらに多くの方と共有し、フレンズの輪を広げたいと考え毎年6月15日の創立記念日に合わせ期間限定で1口3,000円から記念品が贈呈される特別な募金キャンペーンも実施しています。寄付者層を広げるため、少額から寄付できる仕組みを整えており、実際に募金キャンペーンをきっかけに初めて寄付をしたという「寄付者も増えています」。

【クラウドファンディングの効果】

大学では人道的支援に基づいて、軍事侵襲から逃れ、日本での教育の継続を希望する5名のウクライナ学生を受け入れています。学費や寮費を大学が負担し、学位取得まで避難学生の学びを支援するこ

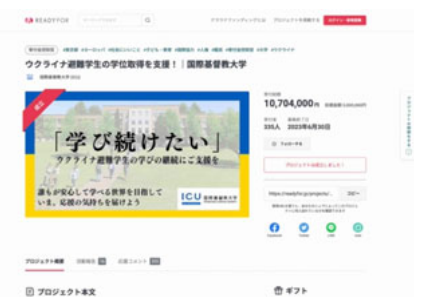
とを大学として約束しています。2023年4月には、ウクライナ避難学生への支援に充てるため、大学として初めて、クラウドファンディングによる募金活動を開始しました。

実施にあたってはクラウドファンディングを運営する企業と連携して取り組みました。当該企業の「誰もがやりたいことを実現できる世の中をつくる」というビジョンと大学の特色や方針が一致していました。当該企業とは週に一度程度打ち合わせを行い、SNSを活用して寄付を呼びかけるといったアプローチの内容やその頻度を詰めて、クラウドファンディングを実施しました。

クラウドファンディングは2023年4月から、3か月という短期間の募集で実施しましたが、同窓生以外にも募金の目的に賛同を得ることができ、短期間で目標額である500万円を達成しました。さらに、寄付総額は目標額を超え、最終的に1,000万円に達しました。クラウドファンディングではなく、大学の募金窓口を通じた一般的な募金活動で寄付を募っても、これほどの短期間で目標額である1,000万円は決して集まらなかつたと考えています。多くの方からの応援メッセージが届けたことが大きな励みになり、挑戦した価値があったと考えています。



集まった応援メッセージは学内に掲示された



クラウドファンディングサイト「READYFOR」の同法人ページ

大学はクラウドファンディング開始にあたっては、法人の関連団体である国際基督教大学教会(ICU教会)から寄付への呼びかけを行ってもらうなど支援を受けることができました。教会とは今回のクラウドファンディングに限らず、協力関係にあり、様々な募金活動など連携しています。

なお、募集方法は、「オールオアナッシング方式」と「オールイン方式」の2種類があります。「オールオアナッシング方式」

は、目標額に達しない場合は寄付者へ返金するため、大学が受け取れる寄付金が0円になります。もう1つの「オールイン方式」は、目標達成しなくても、集まった金額を寄付金として大学が受け取ることができます。今回は「オールイン方式」をとりました。

【顕彰板】

新体育施設建築や新しい教育施設の建築、改修など建物関連の募金活動においては、一定金額以上のご寄付を賜った方のお名前を建物に設置した顕彰板に刻んでいます。2023年3月まで募金活動を行っていた、ドイツフュンドルファー記念館改修棟改修工事では、多くの同窓生が学生会館として利用した建物の改修ということもあり、自分の思い入れのある建物内に名前を刻むことができるという顕彰板の制度が、寄付への動機付けに繋がりました。

【命名権付ネームドルーム募金】

ネームドルーム募金とは、寄付を行うことで、寄付者名や企業・団体名などを、建物の部屋や共有スペースに刻むことができる募金です。現在は、トロイヤー記念アーツ・サイエンス館（T館）、東ヶ崎潔記念ダイアログハウスおよび学生寮へご寄付いただいた個人やグループを顕彰しています。

このように施設及びスペースに愛称を設定する権利を付与することにより、大

学と寄付者との連携を一層深めていくとともに、寄付の受け皿の拡大を目指しています。

命名ができる募金として一番新しい「教育施設の整備（トロイヤー記念アーツ・サイエンス館）」募金の場合には、金額の違う6種類のスペースを約40部屋設定し、これまでに命名ができる400万円以上のご寄付が5件ありました。

【FOIカード】

一回一万円以上（どの寄付事業でも可能）の寄付をされた18歳以上の方（在学生除く）に対しては、領収書を送付する際にFOI (Friends Of ICU) カードを同封しています。このカードにより、年に1度のクリスマスコンサートや図書館利用が可能となる「図書館フレンズ」への登録、大学外来者用駐車場無料アラムナイハウス利用料金割引、生涯学習講座の一部の受講料を割引、などの特典を受けることができます。

【国際基督教大学と寄付】

大学は、第二次世界大戦で敗戦国となつた日本の復興が緒についたばかりの時期に、キリスト教精神に基づき総合大学の設立を目指した日米双方による国際的な募金活動に寄せられた多くの人々の篤志によって献学されました。そして今日に至るまで「基督教の精神に基づき、自由にして敬虔なる学風を樹立し、国際的教養と現代社会人としての良識とを有する

指導的人材を養成し、以て日本の民主化と世界平和の確立に貢献する」という理念は、皆様のご芳志によって支えられています。この理念の実現、そして時代の先を見据える「明日の大学」の発展のため、今後も支援の輪を更に広げられる募金活動に取り組みたいと考えています。